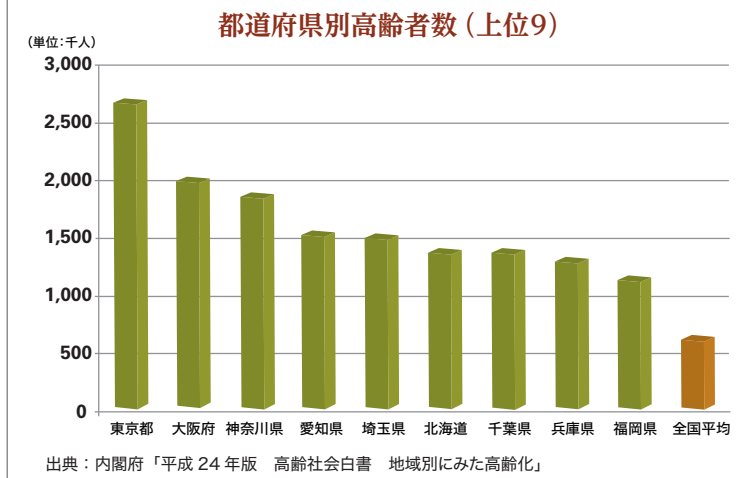


高齢化により医療現場が混乱するのは、団塊世代が75歳以上になり、5人に1人が後期高齢者になる2025年より早まるかもしれないと、辻氏は危惧する。それまでに在宅医療のモデルを作ろうとしているのが柏市だ。同市は都心のベッドタウンで、特に豊四季台団地は65歳以上の高齢化率が約40%と、全国平均24%（12年）に比べ突出している。この問題を舞台に、柏市と東京大学高齢社会総合研究機構、UR都市機構が共同で進めるのが、長寿社会のまちづくりプロジェクトだ。同市の在宅医療とは、地域全体を「病院」に見立てるイメージだ。患者は自宅という「病室」にいて、訪問する医師の診察を受けられる。24時間体制で訪問看護師が対応し、薬剤師が薬を配達。口腔ケアが必要ならば歯

# 介護業界の現在

## ネピアアテンダー ケア通信 Vol.5

発行元：王子ネピア株式会社  
 ケアサポート事業本部  
 東京都中央区銀座5-12-8  
 王子ホールディングス 1号館  
 編集・制作：株式会社ジェイ・キャスト  
 発行人：取締役 ケアサポート事業本部長 須東 亮一  
 発行日：平成26年5月15日



**辻 哲夫(つじ・てつお)氏**  
 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授  
 1971年東京大学法学部卒業後、厚生省(当時)に入省。1996年厚生省大臣官房政策課長。2003年厚生労働省保険局長。2006年厚生労働事務次官。2009年から現職。著書に『日本の医療制度改革がめざすもの』(時事通信社出版局)。

## 在宅医療で都市の高齢化を救う

### 「病床満杯」という悪夢をみないために

全国的に入院患者の半数は75歳以上というなか、高齢化が進むと都市部の病床は高齢者で満杯になり、新患の受け入れを制限する事態が予想される。そうならないよう、在宅医療を推進する試みが千葉県柏市で実施されている。これに関わる東京大学特任教授・辻哲夫氏に聞いた。

科医師が往診する。また介護が必要になればケアマネジャーや介護福祉士が加わる。さらにサービス付き高齢者向け住宅には、在宅療養支援診療所も置き、医療、介護、住まい、生活支援を切れ目なく行う地域包括ケアシステムを実現する。このモデルを成功させ、ほかの都市にも広げていく構えだ。

### 治すだけでなく生活も支える医療

在宅医療の現場では多職種の専門スタッフが患者の病状に応じてチームを編成するが、司令塔になるのは地域医療連携センターだ。市役所と、医師会、歯科医師会、薬剤師会などが連携する。「ポイントには介護保険の運営主体である自治体と地区医師会が密接に連携していることだ」

「参加した医師は『治せばよいわけではなく生活を支える必要性を学んだ』という感想を語ってくれたこともありました。ケアマネジャーも医師を身近に感じて医療を積極的に学ぶようになり、医師との連携が改善し質の高い介護サービス提供につながっています。多職種が連携を深めることで、皆レアルアップするのが素晴らしい」

「いま我々が突きつづけているのは、最期をどう迎えるのが幸せかという問いです。病气と最後まで闘って病院で死ぬのか、生活者として笑顔で生活の場を終えるのか。生活を支える新しい医療の形を確立する必要があります」

(文・西所正道)

「病院でも施設でも、高齢の方は自分がお世話を受けることを遠慮する傾向があり、痛みや不安を我慢してしまいます。注意深く見守るのはもちろんですが、話しかけてもらいやすいような雰囲気を作ることも大切だと思います」

同じ実習に参加してい

アといった具体的な問題を想定し、どう対処するかなどを検討している。「参加した医師は『治せばよいわけではなく生活を支える必要性を学んだ』という感想を語ってくれたこともありました。ケアマネジャーも医師を身近に感じて医療を積極的に学ぶようになり、医師との連携が改善し質の高い介護サービス提供につながっています。多職種が連携を深めることで、皆レアルアップするのが素晴らしい」

## 介護の現場を体験 私の眼

### 心と体をケアできる 看護師をめざして

◎深谷大里看護専門学校(埼玉県)

深谷大里看護専門学校で学ぶ清水綾子さんは4年間の社会人経験の後、看護師をめざしています。「前職が病院担当の営業だったので、看護師の仕事が身近で目にしてきたことがきっかけです。自分でも思い切ったことをしたと思うのですが、誰かの不安を和らげることができると魅力を感じました」

同級生の持田有沙さんは、「病院は患者さんにとっては治療の場ですが、介護施設は利用者の生活の場ですから、家族のように接するというのが病院では経験できない新鮮な感覚でした」と答えてくれました。

清水さんの目標は「心の不安と身体の苦痛を和らげることができると看護師になること」。

「心の不安は施設の経験で、身体の苦痛は医療の場での経験と知識で、どちらの面でも役に立っている看護師をめざして頑張ります」



## 注目のトピックス

### 経済産業省 介護ロボット導入を補助

経済産業省は介護分野におけるロボットの活用を目指し、現場への導入・効果検証のための補助事業の公募を始めた。中小企業の場合、製造・設置費用の3分の2を、それ以外は2分の1を補助する。

2014/4/21 日刊工業新聞

### 24時間訪問介護 利用は1日3回

介護が必要な高齢者の自宅での生活を支える「24時間地域巡回型サービス」の平均利用回数が月96.9回、1日3回であることが厚生労働省の調査で分かった。

2014/4/22 MSN産経ニュース

## おむつ塾 便利

### Vol.3 尿モレに「インナーシート」のワケ

(王子ネピア ケアサポート事業本部)

いよう生理用ナプキンを代用している人が多くいます。そこで、生理用ナプキンと軽失禁シートを比べる実験をしました。

軽失禁シート「ネピアインナーシート」と生理用ナプキンの内側(お肌に触れる面)に、尿に見立てた温水をかけます。これをたたみ、外側(防水シート面)にガラスのコップを伏せて置くと、ネピアインナーシートの上のコップは水蒸気でみるみる曇ります【写真①左】。ネピアインナーシートは「高透気性シート」となっており、水分は通さず、空気のみ通すため、この機能がデリケートなお肌の負担を和らげます。

次に青い水をかけて触れてみました。生理



用ナプキン【写真②右】は、圧迫すると水分が逆戻りします。ネピアインナーシート【同左】は少々押ししても水分が戻らず、表面もさらっとしています。これは、水分を素早く取り込む不織布と、多量の水分を吸収して閉じ込める高吸収性ポリマーの力。いったん吸収した尿を逆戻りさせません。この吸収力、保水力、通



気性と消臭ポリマーが、横モレ、ムシやかぶれ、ニオイの心配から解放してくれるのです。

ネピアインナーシートには、30cc(くしゃみで漏れる5cc×6回分)、60cc、120cc、180cc(排尿1回分強)の4つのラインアップがあります。30~120ccは厚さ2.5mm【写真③】、180ccは4.5mm。他社製品が120ccで7mmなのと比べると画期的な薄さです。装着時に目立たず、自然な着け心地。持ち歩きにも便利です。





# 兵庫県初の複合施設です

兵庫県を中心に医療と福祉を提供するリアンズグループが、4月1日、小野市に新たな複合施設を開業。その栄宏会小野病院と特別養護老人ホーム・なごみの杜を、王子ネピア社長の清水紀暁が訪れ、抱負を伺いました。



**清水** 兵庫県で初めての複合施設を見学させていただきました。オープンおめでとうございます。1〜3階が病院、4〜5階が特養という画期的な施設は明るくて、温かみを感じました。以前は市民病院だったそうで、地域や行政の期待が大きいと聞いています。

**加納** 前市民病院は統合されて、急性期医療や先進医療を担っています。我が栄宏会小野病院に期待されているのは、その後方支援です。また11の診療科目を設けましたので、地域の方の急性期医療へのニーズにも十分お応えできると思います。

**清水** そこに特養が併設されているから、住民の皆さんは心強いですね。

**廣田** お申し込みの際に「下の階が病院ですよ。安心です」という声をよくいただきます。特養に



入っても病院へ行くことはあり、老老介護の多い現代では病院へ連れて行くのも大変ですから。

**清水** 全国的に複合施設がもっとできるというので、職員の確保は大変でしたか？

**加納** 小野市では回復期と慢性期医療の栄宏会土井病院が21年、福祉施設「ぬく森こもれび」が6年、それなりに実績を残してきました。それを評価していただいたのか、新規募集の際に人が集まってくれました。

**廣田** グループの職員の子どもを預かる保育園の

存在も大きかったです。365日、24時間体制で働く親をサポートする環境が整っているため、「働きやすい」と若い人たちも来てくれました。

**加納** 小児科があるのが、敷地の一面に「病児保育室」を作りました。病気のときも安心です。

**清水** 複合施設の成功の鍵は何でしょうか？

**廣田** 医療と福祉がスムーズに連携をとりながら、自立してルールを守ってやっていくことだと思っています。

**加納** 組織は別ですが、同じグループなので意思の疎通やコミュニケーションはとれています。

**信頼関係を築いていきたい**

**清水** 理想的ですね。特養には制服がないことに驚きました。

**廣田** 特養はご入居者に

とっては家と同じです。家の中に制服を着た人はいませんから、私たち職員も私服で働いています。部屋も1号室ではなく1番地としています。

**清水** それは非常に新鮮な視点ですね。

**廣田** 私が6年前、初めて特養の施設長になったとき、「おいしいソバを食べに行けない」「もう温泉には行けない」というご入居者の諦めの声を聞きました。この願いをかなえてあげたいと思い、「行きましよう」と一緒に出かけ、喜んでいただきました。ここでも、職員全員で一人ひとりの異なる願いに応えていきたいです。

**加納** 福祉も医療も人間対人間ですから、信頼関係を築いていくことが大切です。地域全体で連携して医療を完結させる時代ですから、いい形ができると思います。

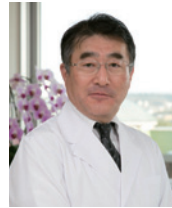
**清水** この試みは成功間違いなしですね。ありがとうございます。



王子ネピア株式会社 代表取締役 清水 紀暁



社会福祉法人 栄宏福祉会 特別養護老人ホーム なごみの杜 施設長 廣田 美智子氏



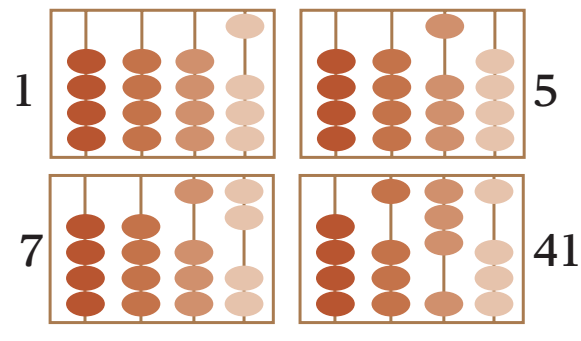
医療法人社団 栄宏会 栄宏会小野病院 院長 加納 純一氏

## 脳のアンチエイジング

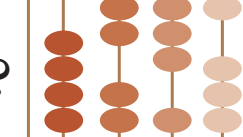
出題＝公益財団法人 日本数学検定協会

柔軟な脳で、変則ルールをクリア！

**問題** このそろばんはちょっと変わっていて、それぞれ数を表します。



それでは、これはいくつでしょうか？



**答え** 99=1+5+3×2×5+5×3×2×5+5×3×2×5+5×3×2×5

## なにわの個性派軍団が行く！

ケアサポート事業本部 大阪支店

大阪支店に所属するメンバーは他の事業所が羨むほどチームワークが良く、飲み会ではマイクの取り合いになり美声(?)のお披露目となります。もちろん、仕事への切り替えは万全です。日頃は近畿の各施設様を訪問し、商品案内をしております。より良い介護・看護をしていただけるようおむつの勉強会、お困り事の聞き取り、改善のご提案をケアアドバイザーと連携し、少しでも皆様のお役に立てるように支店一同、全力でお手伝いさせていただきます。



### 気づけば変わる！

## 楽ラク心身術

「思わずスキップ」「よしよし」とガッツポーズ。ポジティブな気分のおかげで、出るボディランゲージを使って、ネガティブな気分を切り替えましょう。

**【気分を軽やかに】**

沈みがちなときは、スキップがおすすすめ。ペースと状況に応じて、周囲をぐるりと回りまわす。視線が自然と上向きになり、なぜか落ち込んでいらなくなるんです。

時間が許せば、少し汗ばむ程度まで続けると、睡眠の質も向上。

**【やる気を引き出す】**

仕事モードになれないときは、まず「よしよし」と両手でガッツポーズをつくりまわす。こぶしに力をこめたまま、みぞおち

### ボディワークで気分転換

のあたりで合わせたら、あごを引き、エネルギーを体の中心に集めるような気持ちで、ゆっくり息を吸います。このとき脇は締め、背中をできるだけ広げましょう。背骨に張りとする気がみなぎるのを感じてください。次に体の力をゆるめると同時に、息を一気に吐きまわす。血液中の酸素が増えます。立ちまわるときは、足は肩幅で内また気味に。力を入れるとき、つま先が少し上がります。これらは心と体の密接なつながりを体感するワーク。次回はさらにここのマジックを加えます。

監修：牧野修玄 (ヨガ療法士・ボディランゲージ講師)

## 社員ボランティアレポート ネピアテングー被災地高齢者支援活動 支える人を支えよう！

前向きな姿勢に感銘を受けました

ケアサポート事業本部 福岡支店 岩崎和也

2月13日～15日まで「支える人を支えよう！」のボランティア活動に参加させていただきました。

1日目は「男はつらいよ」の上映会などのお手伝い。その後は近くの仮設住宅を訪問しました。上映会は皆様笑顔で楽しんで帰られていたので、そのお手伝いができてよかったと感じました。また仮設住宅の訪問では原発事故によって故郷を離れなければならない方々とお会いしました。放射能の除染が全然進んでいないことや、満足な補償がされず、仮設住宅を離れた後は放射能の心配がある中、元の家に戻るか選択肢がないという厳しい現状を聞き、胸が痛くなりました。

2月13日～15日まで「支える人を支えよう！」のボランティア活動に参加させていただきました。報道で流れる情報だけでなく、被災地のことで知らなければならぬことがたくさんあると感じました。

2日目はデイサービスの利用者の方々と話をしたり、一緒に食事をしたりして、その後は施設の行事で使う資料作成や前日とは別の仮設住宅を訪問しました。本当に元気な方が多く、私のほうがパワーをいただきました。地震という苦難を乗り越えて前向きに生きていこうという姿を見て、自分も頑張らなければと身が引き締まる思いがしました。

3日目は「オシャレ撮影会」を実施する予定でしたが、大雪のために中止となってしまいました。しかし、大雪の中、



被災地で頑張る皆様との貴重な時間

息子さんと一緒に来られたお母様に、急ぎメイクをして、撮影会を行いました。行事がなくなったのは残念でしたが、このお母様が喜んでくれて本当に良かったです。

今回のボランティア活動での経験や感じたことを忘れずに、少しでも人の役に立ち、喜んでいただけるよう努力していきたいと思っています。